

すとおりいは、自主製品の製造・販売やリサイクルセンターを運営する就労継続支援B型と、依存症からの回復プログラムなどを学ぶ生活訓練からなる、多機能型の依存症回復施設です。アルコールや薬物、ギャンブルなどをやめる意志がある仲間の居場所となっています。

今号では「すとおりいスタッフの令和4年度の抱負」「リサイクルセンターの一年間」をテーマにご報告させていただきます。

1 【すとおりいスタッフの令和4年度の抱負】

スタッフKさん

当施設は、1995年に当時の松沢病院の先生や世田谷区の保健師の方々が、地域に依存症に特化した施設が必要だということで「アルコール共同作業所すとおりい」という名称で設立されました。「すとおりい」という名前の由来は、自分たちの新たな生き直しの物語を紡いでいくという意味から来ています。2011年から多機能型として就労継続支援B型と生活訓練の運営を行っています。

就Bでの回復のための訓練は、リサイクルセンターの運営です。自分が使わなくなったものを、必要な人に手渡していくリユースと、ごみをもう一度資源として再利用するリサイクルを行います。社会の中で一度リタイアした依存症の方たちが、もう一度訓練をして社会に戻っていくという回復の姿に重ね合わせたものです。

近隣の方からいただいた寄付品を磨いて、センターに並べる。商品を大事に扱うことは、自分の生き方も大事に扱うこと、自分磨きです。だからいい加減に扱ってはいけません。また自主製品も大事な作業です。紙漉きは、牛乳の紙パックから和紙をむき出し、はがきなどの紙製品に作り替えます。廃油石鹸も家で使った油を再生して石鹸にします。食べることができる油から作っているため、環境にも負荷の少ない石鹸です。

時々、残念なことにこの大事な意味を見失うときがあります。来年度ここをもう一度見直し、丁寧に扱うことを、メンバーとスタッフと子ども心がけて一層磨きをかけていきましょう。

生活訓練は、テキストを使つての学習を中心に、創作活動や散歩などを行い、落ち着きを取り戻していきます。新たな物語の始まりです。

依存症の施設として「人間性の回復」のために、このような訓練をしているところは、全国的にも珍しいと言われています。このことは、もっとアピールしても良いのかもしれません。

コロナの収束はまだまだ先が見えませんが、今年度行えた宿泊研修、アルコール薬物施設連絡会のフェスティバル、そしてソフトバレーボール練習など、本来の形でできるようになったら、どれだけみんなのストレスが解消されるでしょうか。

センターも、時短営業を続けることになりそうです。販売会の回数を増やして、自主製品の売り上げを伸ばすことができれば、より作り甲斐があるのですが、もう少し時間が必要のようです。

メンバーの「回復したい」という思いにどれだけこたえていけるのか、スタッフもしっかり取り組んで行きましょう。断酒を目指していくことの難しさも、ミーティングを通して学び、お互い支えあって行きましょう。そして、笑い声が絶えない運営ができるように、来年度さらに取り組んでいきましょう。



スタッフYさん

「あたり前の事を、あたり前にする」これを来年度の抱負にします。なぜなら、簡単な事かもしれませんが、それを長く続けるのは、簡単な事ではないと考えるからです。長く続けていると、それが習慣になり、やがてその人の生き方になります。例えば、あたり前の事として、約束を守る、嘘をつかない、ごまかさないなどがあるのではないのでしょうか。これらは依存症からの回復にも必要なものかも知れませんね。ちなみに、遅刻をしないと言うのも、あたり前の事だと思いますが、私は35年間続けています。一日は簡単ですが、続けるのは意外と難しいのですよ。

スタッフOさん

私とすとおりいとの関わりは、かれこれ20年以上。こんなにも長く関わってこられたことを一番びっくりしているのは私自身ですが、その関わりの中で一昨年から今年度の状況は初めてのことばかりでした。

新型コロナウイルスの感染拡大で事業所としての在り方を考えさせられました。依存症の利用者さんにとって、「すとおりい」という場が日々の生活で重要な位置を占めているとすると、長い休みを取ることは危険なことこの上ない。不安な状況の時こそ！この場が揺らぐはずにしっかりと根を這っていることで、みんながより充実した生活を送ることができるのではないかとの思いがあり、緊急事態宣言時はリサイクルセンターを休業して、スタッフが趣向を凝らしたプログラムを構成し、毎日楽しく過ごすことができました。

その後、世の中の動向を見ながらセンターを恐々開け「感染しない！感染させない！」を目標に、手洗い・消毒・密を避ける！などという基本的なことを施行しながらの2年あまりは、とにかくあつという間でした。

まだまだ予断を許せませんが、来年度の抱負は？と考えた時に単純に思ったことは、日々明るく、元気に、楽しく、時には厳しく、なによりも一番重要なのは、毎日を丁寧に大切に生き、利用者さんにそっと寄り添える存在でいること。辛いことがたくさんある中でも一縷の光を見出すことができるようにと、心から祈ることも私にとっての課題だと感じています。



スタッフSさん

来年度の抱負について、何か具体的に書ければ良いが、施設長や他のスタッフの方々におまかせして、常日頃から自分が目指している「職場における働く姿勢」について書かせていただき、抱負に代えさせていただきます。わがままをお許してください。

一言で言うと、「仕事は厳しく、職場は楽しく」ということを実践することであるが、一人で働いているわけではないため、かなり難しい。昨年の自分を振り返ると、メンバーの方々に対し、日常でいろいろ気が付くこと、アドバイスすべきことを思いつくが、他の仕事や、「まあ、良いか」と自分をだまし、半分くらいしか実践できていない。今年度は100%とは言わないまでも、優先順位を上げて、自分に妥協することなく、都度、話をしてせめて80%くらいはクリアできるよう努めたい。また、お店の事でも同様で、「まあ、良いか」が優先し、悪くなければ妥協してしまう。顧客満足度を上げるため、善ではなく、最善を目指して、売上に貢献したい。

「楽しく」については、仕事(訓練)をする上で、目的を全員が共有して、何故、今、この仕事(訓練)をしなくてはならないかを明確にしながら、相互理解を深め、一緒にゴールを目指したい。

プライベートでは、健康維持とAnti Ageingを目的に、少しハードではあるが、「Walking 月間55万歩・GO, GO!」を目標に日々鍛えたい。

いずれにしても今日一日、笑顔を忘れず、皆と仲良く過ごしたいです。

スタッフOさん

早くコロナが終息(ゼロはないと思いますが)し、普通の日常に戻ることを願っています。早や2年が経過して、初期の頃よりは過度に恐れることはなくなり、それなりの恐れに変わってきました。こういう状況であればこそ、なおさら、明るく元気よく過ごしていきたいと思っています。

そして、利用者さんとの関係をより大事にして、すとおりいを、それぞれの人生のかけがえのない今日一日の居場所として、「すとおりいに通えてよかった！」とより一層感じてもらえる場にしていきたい。依存症からの回復のためにできるだけ役に立ちたい、との思いを新たにしております。新年度もよろしく申し上げます。

スタッフNさん

来年度の目標ということですが、私は今まで事務仕事に対して目標を立てて、ということをしたことがありません。やってみたいことは、ある程度実現できたので、特にありません。

個人的なことでは、家庭の事情もあるので、なるべく定時に帰れるようにしたいと思っています。後は、ほんのちょっとだけ痩せられたら良いなと思っています。年齢的に難しいかな？

スタッフOさん

私は様々な職種を転々としてきました。思い返せばモノを作る仕事が多かった私が、この作業所に流れ着いたのも、縁起の業だったのかもしれませんが。毎日誰かと何かを作り、直し、磨き、並べる。その淡々とした繰り返しが、後悔ばかりの自分をそのまま、受け入れることに繋がっていることを感じます。

ある時、共に働く仲間が食器を磨き終え「88円の茶碗だから、こんなもんでいいか。」と呟きました。一緒に磨いていた施設長が「それは違うと思うよ。」と声を掛けるのを聞いてハッとしました。

かつて自分が親方として何百万かのモノを作っていた頃、頭からは時間あたりの労働生産性や利潤最大化が一秒も離れることはありませんでした。「よし！今日は時間給で何万稼いだ！」とか「この仕事は材料費と労賃から割に合わない。」とか「この班員は何秒無駄な動きをしている。」とか、人を使い尻を叩き自らを追い込んで、成果という報酬に耐性がついてしまっていたのです。「いい仕事をした！さあ乾杯だ！」というドライランクで、他者からの評価だけでなく、自分自身の評価に酔い溺れていき、自分ではコントロールが効かなくなっていました。

イマ、ココで、ただココロを籠めて細やかなモノを作る…誰かが愛用していたモノを一心不乱に磨く…仲間と協力して完成させる…お金や時間や評価を忘れ仕事をする。その瞬間自体を御褒美と感じる時があります。仕事の後に御褒美があるという考え方の回路が、間違っていたのかもしれませんが。

「(境地にいたるとは)自己を習ふことなり、自己を習ふとは自己を忘ることなり」と道元は自己脱落(じこだつらく)を説きましたが、仕事とは本来そういったものなのかもしれません。

今年も、石鹸作りの次から次と出て来る課題に、明日磨くべき何かが舞い込んでくることに、仲間と直面していくことでしょう。幾らになるからではなく、自分を含め誰かに認められるからではなく、それらひとつひとつの作業に対して、参加した皆が仕事の瞬間に没入でき、そうした仕事本来の喜びを分かち合えるチームワークや信頼関係、作業形態や環境を準備し形作っていきたくと思っています。



スタッフMさん

皆元気にしているかな～と思いながら、事務所への階段を上がる。「おはようございます」の声を聞き、元気そうだなとホッとして「今日も笑顔で過ごそう」と思い一日が始まる。

リサイクルショップでは、自主製品を販売しているが、他施設の自主製品の紹介・展示コーナーも設けてはどうでしょう。

またコロナ禍で外での活動もできない現在、メンバーさんたちにはお店だけでなく、時々楽しい活動、イベントを計画すると、通所する楽しみもできると思うのですが…

メンバーさんが無事卒業できる日は楽しみでもあり、長い間のお付き合いが無くなると思うと、うれしような淋しような。その後を思うと、どうしているかと心配にもなります。

毎日お父さんのようにお母さんのように、対応している職員の皆さんには頭が下がります。また少しでもお手伝いができれば良いなと思っています。

スタッフKさん

すとおりに入って丸3年が経ち、今年で4年目に突入しました。私が入った当初から変わらず持ち続けている思いがあります。「私は利用者さんたちに教えて頂いている」ということです。実際にたくさん事を教えて頂いています。仕事に関する技術的な事や知識、日々の気付き、時にはスピリチュアル的なことも。

私はある自助グループに当事者として参加しています。その自助グループは依存症のグループではないですが、依存症の方々も多く参加しています。すとおりに自助グループでも、依存症のみなさんと一緒にいて感じることは「私は依存症の診断はないけれど、根っこにある、抱えているものが同じ」ということです。それ故、私はすとおりの利用者さんと「仲間」でもあると思っています。

「仲間」である利用者さんたちの話をいつでも傾聴し共感できる自分であること、そして「教えて頂いている」という姿勢をいつまでも忘れずに、すとおりで「今日一日」をこれからも大切に積み重ねていきたいと思っています。



2【リサイクルセンターの一年間】

リサイクルセンターでは一年間の計画を立て、季節に合わせた催し物やセールを開催しています。正面にあるステージに、新生活応援コーナー、母の日コーナー、雛人形、五月人形、ハロウィン、クリスマス飾り等・・・お客様に楽しんでいただけるようにレイアウトします。また、年に数回洋服半額セール、着物半額セール、アクセサリー半額セール等のセールを開催し、まとめ買いして下さるお客様も多数いらっしゃいます。

週に一度のビジネスミーティングでは、皆で知恵を出し合い、どのようにリサイクルセンターを運営するか、話し合っています。「新生活ではどんなものをそろえる?」「母の日にお母さんに喜んでもらえる品物は?」「どうやって配置すればお客様が見やすいかな?」等々話し合うと、キラリと光る斬新なアイデアが出たり、時にはみんなで大笑いしてしまうような楽しい意見が出たりします。

皆で力を合わせて作っている「リサイクルセンターすとおりの」の店内をぜひご覧になってみてください。



3【メンバー状況(令和4年3月現在)】

- ・生活訓練 4人 ・就労継続支援B型 14人
- <男女構成>
- ・男性 15人 ・女性 3人
- <年代>
- ・20代1人 ・30代1人 ・40代2人 ・50代7人 ・60代以上7人
- <アディクション>
- ・アルコール 12人 ・薬物 4人 ・ギャンブル 3人 (重複あり)
- ・就労した者 1人 (令和3年4月1日より)

4【編集後記】

今号はスタッフの「来年度の抱負」を特集しました。最初は、原稿依頼の無茶ぶりにエーっという声が上がったものの、それぞれの思いのこもった原稿を寄せてくれました。こんな思いを持ったスタッフたちに支えられて、施設運営ができているのだと、改めて実感しました。来年度、より充実した日々が過ごせるように、ファイト！ファイト！



5【会員募集のお知らせ】

特定非営利活動法人STORYの趣旨にご賛同、ご支援頂ける会員の方を募集しています。

- ①正会員 : 当法人の目的に賛同して入会される方および団体
入会金 5,000円
年会費 3,000円

- ②賛助会員 : 当法人の事業を賛助するために入会される方および団体
入会金 3,000円
年会費 1,000円

郵便振替口座

- 口座番号 00100-3-591769
口座名義 特定非営利活動法人STORY